岩手復興の

た

め

に支えてく

れ

る

人たちに、

頭を下げずにはいられませんでし

た

72 田恵太郎さん

る日本人の心です。



・田社長は「礼節は日本

です」と誇らしげに語りまかった。藤沢は第二の古里 刈りや花植えなど住宅の 避難先が藤沢でよ

どの被災者8人が入居して城県気仙沼市と南三陸町な大船渡市、陸前高田市、宮

いさま」と被災者というよ人たち。「困ったときはお互援しているのが地元藤沢の 宿舎結いの会」(菅原精治会 き合いをしています。 うに自然体で心の通った付 り帰省した家族を迎えるよ ています。同会を強力に支 長)を結成し、互いに助け合 支え合いながら暮らし

行事に参加しています。草地元の人と同じように年中たり、お祭りに参加したり 菅原会長は「田植えを お祭りに参加したり、

被災地に向かう警察関係車両にあいさつする千田社長と内藤印刷社員。思いやりにあふれた見送りに、全国 から派遣された警察官や機動隊員は「ありがとうございます」と敬礼。感謝の気持ちで応えた。

高田市などへ向かって する本市に宿 社員と一緒に目の前を通過 ら支援が終わる10月まで、千田社長は、4月初めか たちが支えてくれている」 「岩手をこんなに大勢の

とスピーカーで応える車両 えました。中には「ただ今 乗車する警察官も敬礼で応 さまです」と一台一台に頭を ら行ってまい れ、千田社長らの気遣いに する車両に向かって立礼 おはようございます」「よろ しくお願いします」「ご苦労 あいさつ活動は、雨の 風の日も休まず 続けら

被災地での支援活動を終えて、職場に戻った 全国の警察官や機動隊員から千田社長へ寄 せられたお礼の手紙。いずれも千田社長 や内藤印刷社員の思いやりに対す



もてなしの原点

相手の心に寄り添う

震災で多くのものを失った。失ってその大きさを痛いほど知った。 普段忘れがちな人と人とのつながり。お互いさまのありがたさ。

先

が藤沢でよ

か

つ

お隣さんのようによくしてもらっています

多大切な財産を奪っ

日本大震災。20

11日を境に、

私たちの価



雇用促進住宅藤沢宿舎の集会所で11月18日、「がんばっ田」で収穫された復興支援米45袋が「結いの会」の

つながりやお互いさまの関

識させられました。

今、

日本中で人と人との

な家族や地域の「絆」を再認 されました。普段忘れがち う一方、同時に人命の尊さや

雇用促進住宅藤沢宿舎にはします。このうち、藤沢町の

やりの大切さに気付

私たちは心に深い傷を負

値観は大き~

~変わり

皆さんに手渡された。「食べるのがもったいないくらい」と感謝し、笑顔で受け取る「結いの会」の人たち

両にあいさつする活動を行被災地に向かう警察関係車 20人) は震災直後から、 会社(千田恵太郎社長、内赤荻の内藤印刷有限

前を通つて気仙沼市や陸前 から7時30分頃にかけ、同社 た警察官や機動隊員は隣接 めに全国各地から派遣され 沿岸被災地を支援するた 朝7時

月初め こそ成り立つ関係です。

千田社長は「"想』という

「お互いさま」の心があれば 他人」ということわざがあ りになるという意味です あっても近くに ります。災害時には、他人で 「遠くの親戚より近く いる人が Ó

きます。 字は、『相』手の『心』 地域社会や良好なコミュ の心や気持ちを理解する思 商売はもちろん、豊かな の心がおもてなしで 相手の立場で、 と書

私の方が恐縮しています」 さんからお礼の手紙が届き、

と控えめに振り返ります。

しくて皆さんに贈りました。

震災復興を願って名付けた「がんばっ 田」で、「結の会」の皆さんと一緒に、 田植えや稲刈りを行って交流を深めま した。収穫した米は、互いの絆が形に なった友情の証です。一緒に食べてほ

け合い、支え合うコミュニ係が見直されています。助

りが加速して

宮城県気仙沼市出身 宿舎「藤沢宿舎結いの会」会長 る社員 雇用促進住宅藤沢 菅原精治さん

藤沢の皆さんには、野菜を

いただいたり、地域行事に

よくしてもらっています。

入居した時からお隣さんの

ように接してもらっていま

す。地元の皆さんと一緒に

田植えから稲刈りまで参加

した「がんばっ田」で収穫

された米を「結いの会」の 全世帯にいただきました。 「一緒に汗を流して作った

米は、結いの会と藤沢との 絆が形になったもの」と言 われ感動しました。今度 は、私たちが藤沢の人たち に感謝する行事を企画し て、もてなしたいです。

農地・水・環境保全向上徳田地区活動組織代表 千葉ひろあきさん

てきました。質素倹約を暮

古

から日本

を愛し、

礼節を重んじ



しの心、

らしの基本とし、

、侘び寂びの心を大基本とし、おもてな

えています。 価値観は大きな転換期を迎うとしている証。日本人の うとしている証。日本人のは、日本の心が再生されよ けたい」「被災地を支えたい」 されるように、「被災者を助 ティア活動や義援金に代表 た人々の悲しみや苦 本 ら多くの人が避難して 市には、沿岸被災地 人が増えていことの しれませ ボラ

震災で、かけがえの

I-Style 6

思いやる心です